

つくしんぼ

～第24号～

DPCホスピス支援の会だより

～ホスピスを市民の手で～

ごあいさつ

木の葉が舞い散り 冬のおとづれを告げております。一段と寒くなってまいりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。日頃 医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会の活動にご理解ご協力・ご支援を賜り 厚く御礼申し上げます。

先の総会ではホスピス市民開放講座を開設して 東日本大震災支援活動の一環として東北の岩手陸前高田へ赴く心の支えになる悲母観音菩薩像の御尊像（3・7m寄木造）を外來のホールへお迎えして 身延山大学仏教学部教授で仏像修復工房の柳本伊左雄教授に「魂を刻む」というテーマのもとに人間の心の問題を語っていただきました。教授は玉穂ふれあい診療所とマイトレーヤと身延山大学合同の救援活動に毎回参加されています。直接被災地へ赴き 亡くなられた方々の話を聞いたり 生活の様子を見るにつけて 一人でも多くの方々の辛い心を救う一助になればと 岩手・宮城に仏様の慈悲の心を表現する悲母観音・慈母観音を 福島にはお釈迦様の仏像を それぞれ冥福の祈りと復興の願いを込めて刻んでお届けしようという大きなプロジェクトを作って活動に入りました。

この姿勢は医療法人どちペインクリニックの患者様の側に立った医療、付添う家族の側に立った対応を主眼とした医療哲学と本質的に同じです。それぞれの立場で社会に如何に貢献するのかという時に 相手の側に立って行動すると世の中は生きることによってそれぞれ価値を見出すことができ 生きることによって喜びを感じます。

さてこのたび医療法人創設20周年、玉穂ふれあい診療所開設10周年、そして支援の会10年目という尊い節目を迎えることになりました。この尊い節目を迎え 医療法人どちペインクリニックの医療哲学をさらに世に広めるために支援の会の活動をさらに推し進めてまいりたいと思いますので一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

代表

吉田 永 正



2012 ホスピス開放講座
悲母観音 魂を刻む

講師 身延山大学教授 仏像彫刻師 柳本伊左雄先生

ホスピス開放講座 「悲母観音 魂を刻む」 を聞いて

「昨年3月22日、震災後初めて仙台荒浜地区にボランティアとして入りました。冷たい吹雪の舞う日でした。家の土台しか残っていない荒れた場所に立ち、呆然とあたりを見回し、突然奪われた多くの命の叫びを感じました。言葉は出ずただ、涙が湧いてきたのを覚えています。」
講演の冒頭、講師の柳本先生は、静かに会場内に話しかけました。その時から、仏像彫刻師の経験を生かし、救われない魂を受け止めることを考えていたそうです。悲しく無念な「心の痛み」は、亡くなった人たちばかりではなく、今、辛さをこらえて一生懸命に生きている人たちにも同じようにある、と言います。悩める全ての魂を救い「心のよりどころ」を作りたい、と悲母観世音菩薩像の作成を決めたそうです。

身延山大学から悲母観音のご神体を診療所にお運びいただき、当日患者さんや家族、地域の方々、職員がノミ入れを行いました。ご神体の木片をお守りに持ち帰る方もいました。参加された方たちの信仰宗教はそれぞれあると思いますが、それを取っ払い、人として静かに悲母観音に手を合わせ、「どうぞ、心病める人たちをお救いください。」と祈るばかりでした。講演を聴いた後の皆さんの顔は、悲母観音様のような優しい表情に変わっていたように感じられました。

中田美千代

佐野いづ子



どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会 新入役員紹介



皆さん、こんにちは。
新入役員の小澤 敏幸です。
玉穂ふれあい診療所がよりよいところになりますよう
頑張っていきます！よろしくお願い致します。



今回、新たに加入させて頂きました伊藤 和也と申
します。「ホスピスを利用する患者さん家族のため
に」という気持ちを胸に頑張りますので、ぜひ宜し
くお願い致します！

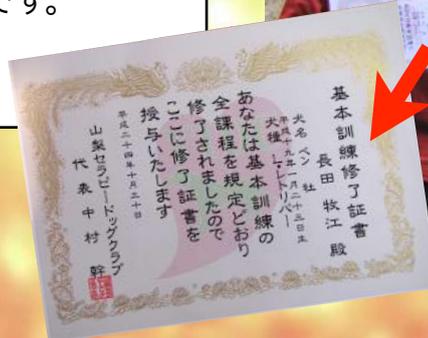
DPCの仲間たちの紹介

癒しの『ピーちゃん』& セラピードック『ベンくん』



玉穂ふれあい診療所のアイドルを紹介します。
白と青のふわふわの羽が自慢のセキセイインコ。ピーちゃんです。
綺麗な鳴き声でみんなを癒してくれています。
最近ピアノコンサートの際に、ピアノの音に合わせて、
あいのてを入れて、診療所のみんなを楽しませているようです。

玉穂ふれあい診療所に新しい仲間がやって来ました。
つやつや黒毛のラブラドル・レトリバー。
名前はベンです。
セラピードッグの訓練を受けてきた賢い犬です。
少し、やんちゃなところもありますが、
みなさん、これからよろしくお願ひします。



見習いの小澤

2013年度

ホスピスカレンダー紹介

医療法人どちペインクリニックにかかわる大勢の方々の幸せを願いながら ボランティアの皆さん・仕事を終えて疲れていてもにこにこしている医療スタッフの方々・統括師長の講演に感動した中学生のみなさん・入院中の患者さん・付き添いの家族の方々・外来へお見えになるの方々・ご近所の方々等大勢の方々の心の思いが祈りこめられ 一枚一枚手作りで仕上げたものです。

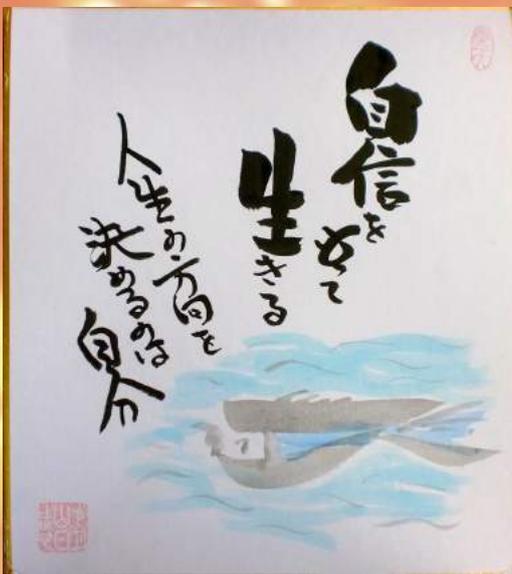
カレンダーの表紙は大晦日の晩まで掲げておきます。この一年を振り返り自分自身の生き方は？ 来年は？ と思いを巡らす時 まず「目が覚めたら今日のいのちに まず感謝」！ “今日ある命明日はないかもしれない 今日一日を生ききる それはあたりまえのこと 特別の覚悟など不要”と土地先生はおっしゃっています。毎日の診療のいのちの哲学だろうと思います。



「幸せは いつも 近くにある」
そう思うとほのぼのとした温かい望が湧いてきます。“正月、節分、雛祭・・・年中行事を大切にし日々の生活を楽しみたい”
メーテルリンクの“青い鳥”幸せの鳥を求めて世界を探したけどよく見たら自分の家に幸せの鳥がいたというように 探せば必ず近くに。

「正直な人は 最も すばらしい人」
“地に足を着けて働く 額に汗をして働く 自然は働く人々に確かな実りをあたえてくれる”
たしかに神仏は見ています。正直ということは 正しいことに素直に従うことを言います。そうでないとストレスになってしまいます。





「自信を持って生きる」
 ～人生の方向を決めるのは自分～
 鮭は緑の山のきれいな川で生まれ
 下って大海原へ。でも川に残るか
 下っていくかは自分次第。自信を持って
 決めれば悔いはなし。
 “自分の人生 自由型 幾つになっても
 自由に生きる・・・そんな夢をみた”

「宝物は いつも 自分の中」
 探せば出てくる素敵なもの。ひきだすこと
 を educate といいます。
 それを教育 education と言います。
 “見上げる夜空は永遠の宇宙のはてへと
 伸びている 大宇宙の中の小さな人間
 しかし、可能性は無限の自分でありたい”



「落ち葉は大地を肥し 青葉は大地を潤す」 大自然の
 生きとし生けるものはお互いにいのちの支えあいをして
 大宇宙のいのちを作り上げています。田畑の穀物や野菜
 もそうです。“雨は山野を潤し 河川となって 大河に注ぐ
 水蒸気となった水は雲となり 雨や雪となって 地
 に注ぐ そして生物は誕生した”
 海と山は仲良しさん！

「過去を忘れて 今に打ち込む」 いまという現実が
 あるのみです。今を大切にすること、それはいのちそ
 のもの。“地球 私たちの星 この星で生まれてこの星
 で死ぬ 当たり前的事だがありがたい事だ この地球
 を大切にしよう”



理事長あいさつ

今までの10年 これからの10年

玉穂ふれあい診療所が診療を開始して足かけ10年になります。がんも含め最期を迎える人々のケア（End of life care）と地域の人々のかかりつけ医としての医療、そして、ペインクリニックと漢方医学の専門医療を行なって来ました。この10年間で玉穂ふれあい診療所の医療はそれなりに定着したかと考えています。

外来-在宅-入院-施設を有機的につなぐ私達の医療は、これからの日本に必要な医療の先陣を切っていると言ってもよいでしょう。

これからの日本は人口の減少（推計では2055年に8993万人）と高齢化社会（推計では2055年の65歳以上は41%）を迎えます。

そうした社会に必要なのは、病院での治しきる医療（iPS細胞などの新技術に期待できる）のさらなる発展と、歳を取っても自分の力で生きられる健康寿命を延ばし最期は病院ではなくて自宅など自分の生活の場で「ぽっくりと逝く」医療（在宅医療など）です。しかし、在宅医療はかなり立ち遅れています。

そのため政府は本腰を入れて在宅医療への取り組みを進めています。先進的な取り組みをしている全国100か所をモデルケースとして公募し、在宅医療連携拠点事業所として選びました。医療法人どちペインクリニックはこれに応募し選出されました。山梨県の代表というわけです。

在宅医療を山梨県に根付かせるために県や保健所と協力し合ってその事業を進めているところです。簡単なことではありません。今後10年くらいはかかるでしょう。

また、外来や入院での抗がん剤治療はすでに手がけておりますが、玉穂ふれあい診療所の新しい医療技術面として、土地岳彦、高田慧子両医師の主導の元、KM-CART（腹水を浄化し静脈に戻してやる医療技術）や睡眠時無呼吸障害に対する検査とCPAP療法（補助人工呼吸の一種）による治療などを行えるようになりました。

これからの10年、新しい医療技術も取り入れながら、今までの医療をさらに発展させ皆様とともに歩んでいきたいと願っております。

2012年12月

医療法人どちペインクリニック

理事長

土地邦彦



新入職員紹介

伊藤（写真右）

事務職として患者さんが気持ちよく利用できる病院作りに貢献したいと思います。宜しくお願い致します。

原田（写真左）

患者さんご家族の思いを大切に、心に寄り添えるような看護が提供できるよう“その人らしさ”を大切に関わって行きたいと思っています。



編集後記

今年度第1回目のつくしんぼでは、来年のホスピスカレンダーのご案内とホスピス開放講座のご報告、そして新しい仲間たちの紹介をさせていただきました。開放講座においては皆さん、悲母観音様の慈愛に満ちたお顔にとっても癒されたのではないのでしょうか。これからも皆様の心に残る“つくしんぼ”を目指して、編集委員一同がんばってまいります。ご支援よろしくお願ひします。



「ゆっくりねるし」
かもがわ出版
☆好評発売中☆

DPCホスピス支援の会だより
つくしんぼ～24号～

山梨県中央市成島2439-1
玉穂ふれあい診療所内
TEL055-278-5670
<http://www.dpc-hos.or.jp>

医療法人どちペインクリニックの
ホスピスを支援する市民の会
代表 吉田永正

編集委員

佐野利恵子 中田美千代 伊藤和也
佐野しげ子 小澤敏幸